



東海生研 ～ メールマガジン 第156号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会



\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
- ☆行事予定
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 12月研究会 (12月13日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆平成30年度「イノベーション創出強化研究推進事業」説明会 (12月27日)
- (農林水産技術会議事務局)
- ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
- ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3 : NexTEP-Aタイプ (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
- ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
- ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

<p>◆1◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業</p>
--

☆行事予定

- ・競争的研究資金説明会： 1月中旬
- ・情報誌「バイオテック東海」： 1月発行予定

<p>◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等</p>
-----------------------------------

?中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 12月研究会

【開催日時】平成29年 12月 13日(水) 14:00～17:00

【開催場所】名古屋市市民活動推進センター 研修室  
名古屋市中区栄三丁目18番1号  
ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階  
(電話:052-228-8039)

【講演】

1・14:00～15:30分

「家庭用燃料電池 エネファームの概要とその動向」

東邦ガス株式会社 技術開発本部 技術研究所 家庭用技術 澤木大輔 氏

2・15:40～17:00

「燃やさずに有機物を減容しリサイクル。次世代の廃棄物減容装置“ERCM”」

株式会社 ASK商会 開発部 小林靖典 氏

【会費】会員 無料、会員以外1,000円(学生 500円)

【懇親会】講師を囲んでの懇親会を予定(自由参加) 会費 3,000円

---

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

---

☆平成30年度「イノベーション創出強化研究推進事業」 事業説明会

【開催日時】平成29年12月27日(水) 13:30～16:00

【開催場所】農林水産省本館7階講堂 (東京都千代田区霞が関1-2-1)

【主な内容】

- ・「イノベーション創出強化研究推進事業」の概要
- ・応募要件
- ・事務手続き
- ・スケジュール
- ・その他
- ・質疑応答

【農林水産技術会議事務局HP】<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/171205.html>

【参集範囲】農林漁業者、民間企業、大学、都道府県、国立研究開発法人等

【参加可能人数】250名

【参加申込方法】インターネット又はFAXにてお申込み下さい。

インターネットでのお申込み:

<https://www.contactus.maff.go.jp/affrc/form/system/171205.html>

【お問合せ先】上記の農林水産技術会議事務局のホームページをご覧ください。

.....

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。  
<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 平成 29 年度競争的研究資金等について

☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ 3 : NexTEP-タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成 30 年 3 月 30 日 (第 3 回締切)

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成 29 年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_mirai01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成 30 年 3 月 30 日 (第 3 回締切)

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成 29 年度一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_ippan01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成 30 年 3 月 30 日 (第 3 回締切)

.....  
☆平成 30 年度河川砂防技術研究開発 (国土交通省)

<http://www.mlit.go.jp/river/gijutsu/kenkyu.html>

分野等：河川・水防災技術分野、砂防技術分野、海岸技術分野、地域課題分野、流域計画・流域管理課題分野

公募期間：平成 29 年 1 月 1 日～30 年 1 月 1 日

.....  
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000206.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html)

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術
- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～平成30年3月30日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください (下記のURL)。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆園芸関係

○自家受粉が可能なニホンナシ新品種「なるみ」

ニホンナシの主要品種は、自家不和合性があるために、結実させるには、他の品種の花粉による人工受粉が必要です。しかし、開花期間が短いために、人工受粉期間は大変忙しく労力が必要となります。農研機構果樹研究所 (現在 果樹茶業研究部門) では、人工受粉を必要としない、中生の新品種「なるみ」を育成し、品種登録しました。「なるみ」の果実は「豊水」と比べて、果肉の柔らかさ、糖度がほぼ同程度とされています。苗木は販売されています。

農研機構ホームページ

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/fruit/060153.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/fruit/060153.html)

○コスト・環境負荷低減のための青果物のバルクコンテナ物流技術の開発

キャベツなどの流通で、新規バルクコンテナを用いて流通させた場合に、従来の段ボールの場合と比べて、包材コストを3割以上、物流に関わる二酸化炭素発生量を3～4割削減可能となります。この方式は、物流時の品質保持が可能な積載条件下での実用化が可能です。

農研機構ホームページ

<http://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/3010026944>

☆畜産関係

○ヤギによる雑草等の管理

ヤギは、摂食する植物の範囲がウシ、ヒツジよりも広く、人力や除草機で除草しにくい傾斜地（棚田、土手、その他の法面など）での除草に適しているとされています。特に、中山間地域では、高齢化、過疎化が進んでおり、危険の伴う傾斜地の除草作業を行う人員が得にくくなっていることからヤギ除草が注目されています。また、ヤギによる猿害軽減効果もあるとされています。

遊休棚田の山羊を使った土壌保全的雑草管理・利用（農林水産技術会議アグリサーチャー）

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/218982>

ヤギ放牧による雑灌木の除去効果（農林水産技術会議アグリサーチャー）

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/224718>

ヤギは牛の好まない草地雑草スイバを好食する（農林水産技術会議アグリサーチャー）

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/220579>

山羊（シバヤギ）の放牧でチカラシバを退治する（農林水産技術会議アグリサーチャー）

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/226798>

ヤギを利用した猿害軽減技術（農林水産技術会議アグリサーチャー）

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/220376>

.....

編集後記

師走に入り、何かと忙しく、また急に寒さが身に染みてきました。インフルエンザ・ワクチンの生産が間に合わず、予防接種もままなりません。風邪などひかぬようにお気を付け下さい。先月号からの間にあったこととしては、北朝鮮による大陸間弾道ミサイルの

発射実験が行われ、射程が米国に達する状況となり、緊迫感が増しています。また、トランプ大統領によるエルサレムをイスラエルの首都とし米国大使館を移すとの歴代米国大統領が避けてきたことを実施し、アラブ社会との対話を難しくして対立を激化させ、国際世論の反発を招いています。何事も「米国第一主義」の大統領が、北朝鮮が原爆投下可能なミサイルの完成前に奇襲攻撃をするのではないかと懸念されています。その場合に、日本や韓国に多数の中距離ミサイルが撃ち込まれ、社会経済に多大な損害が生じることが予測されます。核シェルターに補助金を付ける議論よりも、万が一にも戦争とならないように、我が国は絶対に戦争をしたくないということを明確に米国に伝えて欲しいものです。

ところで、最近読んだ本に、石井哲也著「ゲノム編集を問う～作物からヒトまで～」(岩波新書、2017年7月発行)があります。著者は、名古屋大学大学院を経て、現在は北海道大学安全衛生本部教授であり、生命倫理、特に医療と食のバイオテクノロジーと社会の関係を研究しています。ゲノムとは、ある生物にとって最低限必要な遺伝物質の一式、生物の設計図を意味します。ゲノム編集は、現在、第三世代と言われている「クリスパー・キャス9」と呼ばれる技法を用いて行われ、世界中の多くのバイオテクノロジー研究者がこの技法を用いて農学、医学分野等で研究を進めています。この技法の特徴は、狙ったDNA塩基配列のピンポイントを切断し、塩基の削除、追加、あるいはそこに遺伝子を挿入することが可能といった画期的なものです。従来の遺伝子組換えでは、導入する遺伝子がゲノムのどこに入るのかわからないというのと大きな違いです。従って、ゲノムの狙った部分の遺伝子について理論的に編集(改変)できます。

著者は、今後ゲノム編集によって作出される農作物やヒトの遺伝子治療などについて社会的議論が十分に行われ、社会的な同意を得つつ進められることの重要性を述べています。特に、農作物については、遺伝子組換え農作物が消費者に受け入れられていない状況を反省し、消費者にとってメリットがあるようなターゲット(形質)を選ぶこと、ゲノム編集によって生じる可能性のあるオフターゲット変異(ターゲットでない予期しない箇所の切断・改変)の有無・評価についても十分に行うことなど、慎重に進める必要があると主張しています。本書は、ゲノム編集技術を用いて農作物の育種研究を行う研究者にとって必読の書であるとともに、一般市民もゲノム編集についての理解を増すのに良い本であると思われます。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>